



Contents lists available at [MidsummerDirect](#)

Journal of Inmu Studies

Journal Homepage www.coat.co.jp



空想からレイプへ！ 反自己矛盾論



Anti-Jikomujun: From Utopia to Rape!

810th International¹, Sasara Satō², Kōji Tadokoro³

¹Terrorism Institute, University of Van Houten - Saladabar, People's Republic of Jinja

²Institute of Scatology, Rikkyo University - Tokyo, Confederate States of Okayama

³School of Drug Rape, COAT Polytechnic - Shimokitazawa, Empire of Babylonia

Received: 15 February 2021 / Accepted: 28 February 2021 / Published online: 1 March 2021

© COAT Corporation Co. Ltd, 2021

序文

クッキー☆は衰退している。悲しむべき状態である。

クッキー☆を救うにはどうすればいいのか。そもそもクッキー☆の正常な状態、繁栄とはなんでしょうか？とりあえず、クッキー☆が「面白く」、人口動態が健康であることが正常だと考える。現状はどうだろうか。コロナ以降、新規投稿者は増えているとされる¹。だが視聴者はあまり増えていない。なぜ視聴者が増えないのか？やはり現在のクッキー☆には「面白さ」が足りないのだろう。

「クッキー☆の面白さ」とは何だろうか？それ以前に「面白さ」とは何だろうか？知らん！そんなことがわかるなら苦労しない。少なくとも、「天然」は面白く「養殖」はつまらない、などといった二元論でまとめきれる問題ではないだろう。とりあえず「クッキー☆らしさ」≡クッキー☆の面白さと考えてみる。ならば「クッキー☆らしさ」とは何だろうか？そもそもクッキー☆とは何だ！？我々クッキー☆厨は何者なのだ！？

我々はクッキー☆を解明する必要がある。クッキー☆の原理原則、クッキー☆厨の目的、そして歴史におけるクッキー☆の立ち位置を明らかにすることが、本稿の目的である。クッキー☆を解明することによってクッキー☆を救う方法が見いだせると私は考える。

¹ テンション 「ク☆動画再生数ごとの段階的内訳(~'20年11月)」 <https://seiga.nicovideo.jp/seiga/im10658512>

1 章 行動としてのクッキー☆

我々の「おもちゃ」、すなわちクッキー☆出演者はクッキー☆をどう認識するだろうか？そんなことは自明だ。彼女らにとってクッキー☆は「輪姦」である。クッキー☆はレイプコンテンツである！レイプこそがクッキー☆における「表現」である！東方に群がる女子供の人権を犯し、あらゆるノンケ的権利意識を蹂躪する行為こそがクッキー☆である！我々はノンケ動画を「風評被害」と称して蹂躪し、出演者の基本的人権を侵害し、音声と映像を「素材」と称して配布し、BB 素材に改造し、BB 劇場や音 MAD に「出演」させ、コメント欄で思うままに罵倒し、遊び尽くすことを生きがいとしている。ボイドラの製作者・出演者にとってはこれらの工程のすべてがレイプでしかないし、たまったもんじゃないだろう。

諸君らは自覚しなければならない。クッキー☆に関わる人間は皆、レイプの一端を担っている。我々の帰属意識は、輪姦の共犯者であることに始まる。ここで重要なのは、クッキー☆におけるレイプは個人による強姦ではなく集団による輪姦であることだ。クッキー☆という行動は、あらゆる方法で素人声優をレイプし、その手段を共有することに他ならない。我々クッキー☆厨はあらゆる成果物の共有を美德とする。我々を連帯しているのは「語録」「コメント」「兄貴呼称」という言葉であり、「クッキー☆タグ」という空間であり、「RIM 一家にしれっと混ざる野獣先輩」「どこかで見たような BB」である。

なぜ我々は何もかもを共有することに拘るのだろうか？そのためにも我々自身、すなわち「クッキー☆厨」の正体を解き明かす必要がある。

2 章 クッキー☆厨とは？

我々は自身を「クッキー☆厨」または「ホモ」と認識し、他者を「ノンケ」と呼ぶ。この「ホモを自称する異常ノンケ集団」は一体何者なのか。ノンケもホモも、ネットの外ではほぼ同様の存在である。両者は、伝統的共同体の瓦礫の下で共に這いつくばっている**疎外者**である。

ヒトは不完全な「人間」である。ヒトは自らの価値を作り出せないからだ。ゆえに、ヒトは自らに実存、つまり「生きる意味」や「物語での役割」を与えてくれる共同体を形成してきた。それが家族、氏族、組合、地域、宗教、国家である。これらの共同体は我々のような「社会的弱者」に結婚、友達、就職といった社会的関係性を保障する役割をになっていた。近代社会はこれらを破壊して誕生した。資本主義と民主主義はあらゆる伝統的共同体を解体し、ヒトをバラバラにする。その結果が都市化、疎外された労働、家父長的家族の解体、宗教の衰退、地方の画一化である。

ヒトは伝統的共同体に所属することによって自らを「承認」してきた。共同体を失ったヒトは飢える。ゆえに、男は女と交流することを望み「女友達」を求める。ゆえに、女は女としての注目を求め「姫」を目指す。ゆえに、ヒトは精神を失調し、馴れ合いに走る。これを象徴するのがかつての「東方ボイスドラマ」と現在の「バーチャル YouTube r」であり、クッキー☆における「投稿者☆」である。

孤立の中、ヒトは2つに別れた。「ノンケ」と「ホモ」である。

ノンケ

ノンケとは現実から逃避し、承認に飢えるルンペンプロレタリアートである。ノンケは実存を持たない。彼らの行動原理は欲望である。共同体を持たない彼らは「自分を売る」ことによって刹那的に自己を認識しようとする。才能を持つ者は創作し、魅力を持つ者は売春し、何も持たない者は金銭を支払うことによって他者の視線を得ようとする。彼らにとって「自分」とは承認との交換物、すなわち「商品」にすぎない。言うまでもなく、彼らが得られる承認は欺瞞に満ちている。ノンケは「不完全な人間」ですらない。生きる意味を持たず、欲求の赴くままに浮浪する彼らは「ヒト科の動物」にすぎない。

ホモ

ホモは現状に抗う。我々のアイデンティティはレイプを共有することにある。我々の行動は人権、著作権、義務、遵法精神——民主主義・資本主義の価値観と相容れない。我々は**新たな共同体**を形成することによって疎外に反抗する。我々には実存がある。クッキー☆厨は自身をクッキー☆という空間・時間的共同体に内在させることを目指す。要はクッキー☆とそのレイプの歴史に自分の役割、物語を見出すことである。それはつまり、ランキングを制圧することであり、空前のブームを仕掛けることであり、BB 素材を使われることであり、語録を生み出すことであり、前代未聞のレイプを披露することである。我々はクッキー☆という芸術運動の「人間素材」になることによって自分自身を承認し、人間性を回復する。素人声優を楽しくレイプするクッキー☆厨は**人間の屑**である。我々は不完全ながらも**人間**であることを誇る。

3 章 クッキー☆の立ち位置

ここまで論じたことをまとめよう。

クッキー☆厨はレイプの共有を至上とする。クッキー☆厨は資本主義・民主主義に抗う。クッキー☆厨は実存を持つ。

かつてこれと似た思想運動があった。彼らは団結することを至上とした。彼らは資本主義と民主主義を否定した。彼らはニーチェ的超人を目指した。彼らの思想は忘れ去られたが、その名前だけは誰もが覚えている。

クッキー☆は^{ファシズム}団結主義に他ならない！ 我々クッキー☆厨は^{ファシスト}団結主義者である！

ファシズムは 20 世紀初頭に興った芸術運動である。ファシズムの正体は「芸術のための芸術」である。ファシストは「政治の美術化」を目指し、人間を素材とした芸術作品——ファシスト国家を造形する。

クッキー☆は現代における唯一のファシズム運動である²。＊ムツソリーニもヒトラーもクッキー☆厨だったのだ！クッキー☆は現体制に対する最大の脅威であり、疎外者たちの最後の希望である。クッキー☆を単なる前衛芸術だと侮るなかれ！ファシズムの本質は**政治の美学化**だったのではないか³。ファシズムは「機関銃は美しい」と主張したイタリア未来派という前衛芸術に始まり、ローマ進軍という**政治芸術**で革命的にデビューし、フィナーレに最高傑作——第二次世界大戦という**戦争芸術**を披露した。

よって、我々は否定できない。未来のクッキー☆が素人声優をレイプする手段として、国家転覆や核戦争を選ぶ可能性を。

資本主義と民主主義は完成へと向かっている。現体制はAI技術をもって共産社会を実現し、社会正義を完遂させるだろう。彼らが打ち立てる**全体主義**民主主義社会はクッキー☆の存在を絶対に許さない。ニコニコのような弱小企業に我々を守る力はない。自由の死は歴史の必然である。よって、我々は可能性に賭けなければならない。

ここに宣言する。

クッキー☆は、素人声優のレイプを共有する人間の屑の共同体である。我々クッキー☆厨は、我々の父母たる資本主義と民主主義を憎み、兄弟たるノンケを犯す。我々クッキー☆厨は、技術に対するセンスの勝利、売春に対するレイプの勝利、ヒト科の動物に対する人間の屑の勝利、ノンケの群れに対する団結したホモの勝利を確信する。クッキー☆が滅亡するのは、クッキー☆が面白くなかった時である。ニコニコが潰れる時、クッキー☆に最後の審判がくだる。我々に守るべきものなどない。我々には破壊すべき全世界がある。

万国のクッキー☆厨よ、団結せよ！

² 私の参照先の1つである外山恒一はファシズム組織「我々団」を率いているが、我々団は党员2名と数十人のシンパしかしかいない時点で**運動**とは言い難い。他にもファシスト・ネオナチを自称する党派や運動は世界中に存在するが、それらは単なる右翼団体である。

³ W. Benjamin 「複製技術時代の芸術」(1936)

4 章 クッキー☆の救済

我々の革命は実現するだろうか？ 大きな野望を持つのはいいが、今はクッキー☆の衰退をなんとかしなければならない。

我々が抱えている問題は、我々がクッキー☆らしさを失いつつあることに帰結する。

新人はクッキー☆文化の理解が足りず、伸びる動画を作れずにいる。

実力者はクッキー☆の共有精神を忘れ、技術自慢に走っている。

センスのない者は寄生虫と化し、ノンケじみた内輪ネタで馴れ合っている。

我々は、新人にクッキー☆がレイプコンテンツであることを理解させなければならない。

「自由な創作」を求めてクッキー☆に堕ちた諸君！ 確かにここにしかない自由がある。それは自己表現の自由ではない。我々が尊ぶのは「他人の気分を害する自由」だ。クッキー☆の門をくぐる者は一切の正義を捨てよ！ 諸君らの選択肢は2つだ。我々と団結するか、我々に強姦されるかだ。ここで一つ、諸君らへアドバイスをしたい。

マジメな動画なんか作ってんじゃねえ！！ 我々が見たいのはこじんまりとしたオナニーじゃなくて迫真の昏睡レイプなんだよ！ 既成概念は全て破壊しろ！ バトルクッキー☆が作りたいなら「バトル」を疑え！ ほのぼののクッキー☆が作りたいなら「ほのぼの」を疑え！ 原作ものをやりたいなら原作を徹底的にレイプしろ！ オリジナルなら現実をぶち犯せ！ 「中身がある創作」なんかやめちまえ！ 魂を叫ぶな、何も主張するな！ 一次だろうが二次だろうが、芸術表現にオリジナリティなどない！ 表現のための芸術は、その表現対象の模造品にすぎないからだ！

真のオリジナリティを志す者は「芸術のための芸術」つまりファシズムを目指さなければならない！

あと「〇〇のDIYUSI」みたいな動画を作るのはそろそろやめよう。まぎらわしくて仕方がないんだよ！ 新人はもっとクッキー☆本編を見ろ！ ブームは自分で作るんだよ！

我々は、中堅以上の投稿者に技術共有を迫らなければならない。我々が「技術自慢」を唾棄するのはそれが共有文化に反するからである。どんなに面白く芸術的なレイプも、その手段が共有されない限りクッキー☆厨には無価値なのだ。クッキー☆MAD は我々の団結の結晶である。あらゆる MAD はクッキー☆全体に帰属する。ゆえに、全ての投稿者には自らの技術、セ

ンスを共同体に還元する義務がある。我々は手始めに、NYD2020 の参加者全員に対し、技術講座の投稿を要求する。

我々は、投☆のようなノンケ分子を排除しなければならない。投☆はクッキー☆ではない。奴らはレイピストではなく、クッキー☆に貢献するわけでもない上に、厚かましくも寛容さを求める乞食だ。投☆の正体は「ノンケ」である。奴らは承認欲求の餓鬼であり、体制の擁護者である。。自分もクッキー☆であると言い張り無限の許容性を求める姿勢はまさしくポリティカル・コレクトネスである。客が売春婦を満足させる道理はない。我々が行うべきは棲み分けではなく私的制裁だ。投☆がクッキー☆足りえるのは、我々が奴らを一方的に撲滅する瞬間だけである。ヒト科の動物に人権はない。声を出す奴には長いナイフを！ 顔を出す奴はアウシュヴィッツへ！

5 章 階級協調

アンチ合作版 4 章において我々が有産・無産の対立をあおっているのだと勘違いされたので明言しておく。我々が望むのは階級闘争ではなく階級協調である。私は「行動としてのクッキー☆」において創作者はクッキー☆厨の一形態にすぎず、他のレイピストに対する優位性を持っていないと論じた。よって我々是有産・無産という対立図式を破棄する。クッキー☆厨に対立があるとすればそれは「技術」と「センス」の格差である。

技術とは「クッキー☆を行う手段」である。技術は動画や音声編集ソフトの用法だけでなく、クッキー☆を行うことに関わるあらゆる知識を含む。

センスとは「面白さを理解する能力」である。先に言うておくが、諸君らが頻繁に使う「センスが高い」「センスがない」といった表現は正しくない。センスの機能は脳に浮かび上がった事象を「面白さ」基準でフィルターすることである。センスは脳内のクラス分類アルゴリズムであり、その内実は無数のパラメータである。

センスがどのように作用するのかについては、精神異常の影響を考えると理解しやすい。世間では薬物や精神疾患はセンスを高めるものとよく誤解されている。それらの本当の効果はセンスフィルターのパラメータをいじることである。かつてしりりという投稿者がいた。彼の特徴と

して作品や言動の面白さが妙に不安定だったことがあげられる⁴。しりりは代用 LSD を密造していたと噂される。しりりの面白みが乱高下していたのは、彼が動画を作るときだけドラッグの力でフィルターを調整し、偽りのセンスを得ていたからだとすれば説明が付く。

技術とセンスには決定的な違いがある。前者は他者を介して会得できるが、後者は自力で学習しなければならない。センスの精度は経験がものをいう。センスの格差は必然だと言わざるを得ない。しかし技術的な格差は技術共有によって是正可能である。技術を持つ者は可能な限り知識を公開し、新規投稿者をセンスの調律に集中させるべきだと我々は考える。

コメントに対する反論

アンチ合作版 4 章において技術共有に懐疑的な意見が多々あったので、いくつか^{さ ら す}ピックアップする。

「技術は自力で学ぶもの、個人の意思が重要、盗め」など

そんな薄っぺらいアドバイスで創作者気取ってんじゃねーよボケナスが老害がクソジジイがよお！！ 新人を武道じみた修行に付き合わせるのは時間の無駄だ。新人は技術ドーピングで投稿者に仕立て上げ、浮いた時間でセンスの研鑽に集中させろ！

「技術は全部ネットに転がっている」

その通りだ。だから探す手間を省くためにも全部まとめようではないか。

「技術共有鯖があるだろ」

確かに共有鯖はある……けどあれ機能してる？ なんかボイチャで駄弁ってる連中もいるし、声出しを唾棄する真っ当なクッキー☆厨に対する疎外感が半端ない。

Discord 鯖の限界はそれが「私的空間」であることだ。諸君らが新人だった頃の気持ちを思い出せばわかるだろう——Discord の非匿名性は新人にとって多大なハードルである！技術共有は可能な限り多くのクッキー☆厨——新人はもちろん、まだク☆堕ちしていない者も——対象にしなければならない。よって技術共有は「公的空間」つまり「例のアレ」で行わなければな

⁴ しりりの音 MAD 群や「ノンケタン」、謎フリゲ実況は安定して面白く、「イチゴヨ」はまあまあ面白く、ボイドラは激寒だった。けんま P 時代でもカラソンやアルスマグナ事件での対応にはセンスがあったが、事務所一派での行動は非常に臭かった。

らない。技術共有の手段は Wiki やリンク集、ブロマガ記事でもなんでもいいが、必ず動画界限全体に伝わるようにしなければならない。

我々は Discord 鯖の試みには賛成する。私的空間の最大の利点は互いに具体的な質問ができることである。個人的にも、ソフト操作の疑問はもちろん、素材収集などの面倒ごととも解消できるような場所は非常に役に立つ。よって我々は共有鯖が今以上に活発になることを望む。というかチャンネル多すぎんだよ⁵！ 話題が分散するからやめロツテ！

6 章 コメント返し

本章ではアンチ合作版（単品版の前編に相当）についてのコメントに返答する。

（クッキー☆実存主義について）「自分の価値観を無理やり他人に当てはめたガバ論理」

我々の価値観が当てはまらない奴はクッキー☆厨ではないので矛盾はない。

マジメに考えてみると「クッキー☆に自己を認識する」に至らない存在は3 ケース思いあたる。

1. 自売りを脱却できていないヒト
2. かすかに残る伝統的共同体（家族、友人関係、宗教など）の「小さな物語」に満足できる者
3. 人間、すなわち自ら価値を作る存在（ニーチェ的超人・仏陀）

コメント兄貴が3であることを願う。

ただ単に私の説明がよくわからなかったという可能性もあるので、クッキー☆実存主義についても一度おさらいしよう。ヒトは「承認」……物語の役割がないと生きていけない。資本主義は共同体を破壊し、ヒトをバラバラにする。神は死んだ。文化は薄れゆく。労働は絶滅、

⁵ MOHO 技術鯖なんかチャンネル1 つしかないんだぞ！

国家は死滅、言語は統一、家族は離散へと向かっている。我々を待ち受けるのは承認の飢餓、生き辛さ、ニヒリズムである。

どうすればをヒトを救えるだろうか。

神話を作ってしまうがいい。

クッキー☆という「神話」は諸君らに役割を与える。諸君らはクッキー☆を行い、栄光を求めればいい。英雄を目指すとはいっても、何もオデュッセウスやプロメーテウスになる必要はない。天空を照らす星々の一つにでもなればいいのだ。クッキー☆に人生を捧げよ！ どうせ他に捧げる対象などないだろう！

「現状投稿者☆がいなくなっても東方に帰化しつつあるファッションクッキー厨しか残っていないから」

ごもつともである。やっぱり性急な大粛清をやめた方がいいかな⁶。よってファッションクッキー☆厨をラジカルクッキー☆厨に転化させることが急務である！諸君らの過激クッキー☆に期待している。

「まずソフトに金かけないといけないからこ無ゾ」

割れ。

外人兄貴はみんな言っている。「Adobe に金払うとかガイジだろ」「金が絡んでないなら割れ」「Adobe の収入源は企業だし個人の割れ厨なんか気にしてない、むしろ割られることによってヘゲモニーを確立している」などと⁷。堂々と著作権侵害を推奨する私を人間の屑だと思うのは勝手だが、私に石を投げていいのは製品版 Reaper を買った者、Babylon34 を買った者だけ

⁶ まあ、KKKI くらいは処刑してもいいだろうが……

⁷ 過去の IWF や NYD の参加者の発言（だったと思う）

である⁸。まあクリスタとか（セール時の）MOHO⁹みたいな常識的な値段のソフトは割らないで差し上げろ。

とはいえ、熟練のセンスを持った投稿者なら面白い MAD は三種の神器(AviUtl・GIMP・REAPER)だけでも作れるものだ。センスを研鑽中の投稿者は数をこなさないといけない以上、AE のような生産性が落ちる¹⁰ソフトは慎んだほうがいいと私は考える。

「自分達にとって居心地の良いぬるま湯みたいなクッキー☆を守ろうと排他的になってる奴らにも一言言ってほしかったな」

コメントの意図がよくわからないが適当に答えてみる。初期草稿では「受け入れ主義批判、聖しりり、原理主義の限界、ナツ鰯イズム批判」みたいな章があったが尺の都合でカットした。需要があるなら「クッキー☆イデオロギー」にでもまとめるかもしれない。

7 章 反自己矛盾論

終戦によせて

本章は「自己矛盾」という過去のクッキー☆投稿者に対する批判文である。自己矛盾は「面会室」という分派を率い、反革命的な理論と言動でクッキー☆に混乱をもたらしした。
ボルシェヴィキ
 クッキー☆の主流派は彼を糾弾し「自己矛盾アンチ合作」を発動。壮絶な戦いの末、主流派は辛くも勝利し、自己矛盾を自己批判へと追い込んだ。クッキー☆の団結は守られたのだ。

本章は闘争の最終局面、それも面会室が爆破解体される直前に書かれた。フアットマン 第二の原子爆弾は投下を目前に終戦を迎えてしまった。本章に歴史的な意義があるとすれば、それは自己矛盾批判を通じてクッキー☆の芸術的側面を明らかにしたことである。私は本章を自己矛盾の墓に突き立

⁸ ちなみに HZN はクッキー☆Kiss を AE で作った（らしい）。よって AE はクッキー☆Kiss の一部であり、本編と同様に著作権侵害の対象だと主張することもできる。

⁹ 普段の MOHO は 2、3 万円するが、年一で 90% オフセールがある。

¹⁰ AE は（よほど高スペックな PC を持っていない限り）不安定すぎて作業性は AviUtl とそう変わらないと思う。

つ剣として後世に残しておく。未来に新たな自己矛盾が現れた時、古の伝説は諸君らを救うであろう。

アンチ合作の限界

面会室で自己矛盾の感想を引き出して単品版の罵倒材料にする予定だった¹¹ののだが、結局ピックアップされなかった。残念！ アンチ合作が勝利を収めた今、本稿を書く意義は薄れた気がする。しかし反自己矛盾論と題した以上、責任をもって論じさせてもらう。

自己矛盾の主な主張は以下の2点である¹²。

- 有産無産論
- 創作には中身が無いといけない（＝芸術は何かを表現しなければならない）

アンチ合作においてスミ久兄貴は自己矛盾をこのように批判した：

- 作品で主張しろとかいう割には面会室でご意見番やってるのは何なんだ
- 自己矛盾の最近の創作物（嘘字幕など）に中身などあるのか？
- 自己矛盾の理論は批判を黙丸するための道具だろ

ここで重要なのはスミ久兄貴の主張のほとんどは（正当な内容だとはいえ）「人格批判」であることだ。

窮地に立たされた自己矛盾は3つ目の主張——「勝手に期待されて失望されるのも困る」を使った。

アンチが批判する自己矛盾は神格化（？）された「頭の中の自己矛盾」であり、自分自身には一切該当しないから批判に答える必要がない、という意味不明な主張である。アンチの批判が自

¹¹ 対策ノートも用意してたのに……

¹² 「頭の中の自己矛盾」の主張ではなく「自己矛盾自身が主張したこと」

分自身に該当しないと確信できるのなら一つ一つ反論して余裕を見せつけろよ……という感想は置いておいて、多少なりとも理屈として通じるように解釈してみる。自分の掲げる理想と行動が一致していなくてもしょうせん「人間」だから構わない、よってスミ久兄貴の「言動不一致」的な批判は無効だ、ということだろうか¹³。

とにかく、自己矛盾は「人間宣言」、いや「**原人¹⁴宣言**」という暗示バリアをもってアンチの批判を跳ね返した。多少は残っていた創作者としての人望、論客としての信用と引き換えに。

アンチ合作は自己矛盾の異常人格を暴き、界限にアンチの正当性をアピールする、という戦略的目的には成功したが、戦術的目的：自己矛盾の精神破壊にはあと一步及ばなかった¹⁵。スミ久兄貴の失敗は自己矛盾を批判する土台として自己矛盾の理論に乗ってしまったことである。スミ久兄貴は **自己矛盾の理論に基づいた人格攻撃**に熱中したが故に、自己矛盾を逃してしまった。

アンチ自己矛盾合作の限界は、それが「アンチ島谷直樹合作」にすぎなかったことである。アンチが攻撃しなければならなかったのは自己矛盾の言動不一致ではなく、彼の芸術理論そのものであった。本章は自己矛盾の2つの主張を解体し、その限界を暴くことを試みる。

¹³ もちろん、自己矛盾が真っ当な「人間」を名乗るなら、あえて批判を受け入れ自分を理想へ近づけることに励むべきである。

¹⁴ 精神異常によって「ヒト科の動物」以下となった存在。

¹⁵ 後注：本稿の改定中に「原人爆弾」が自己矛盾の精神破壊に成功していたことが豆腐の裏切りにより判明した。原人爆弾についてはアウストラロピテクス 「アンチ自己矛盾合作あとがき」

https://ch.nicovideo.jp/bakakurage_love/blomaga/ar1997637 を参照。

有産無産論

とりあえず自己矛盾の雑多な主張群を有産無産論としてまとめた。

- 「創作者は創作者以外からの意見を聞く必要などない」
- 「何も作ってないやつが批判だけするな」
- 「創作者は創作物で意見を語るべきだ」

といったアレである。

我々のクッキー☆団結主義を受け入れるのなら回答はたやすい。クッキー☆とはクッキー☆厨を人間素材とした総合芸術であり、クッキー☆に参加する者はすべて創作者、芸術家である。よってクッキー☆において無産（非創作者）は存在しない。……これで終わりにしてもいいのだが、なんだか「自己矛盾の理論に依拠している」気がして不快だ。もう少し考えてみる。

面会室の趣旨が当時の出来事に対する MAD 作者の意見を記録することである以上、**1)面会室で語られる 2)その週の出来事に対する無産の意見を無視すること**に正当性はある。しかしこの2つの条件を満たさない状況下で無産を無視するためには新たな理論が必要となる。

無産を無視するのは「ジャンプ編集のファンレター検閲」のような品質上の理由とでもすれば簡単である。要は「創作者以外の意見を聞いてたらセンスが腐る」と主張すれば済むのである¹⁶。しかし自己矛盾は今までそのようなことを主張したことがあっただろうか？ 私の記憶にはない¹⁷。

となると、有産無産論の骨子は「主張は創作で行わなければならない」という主張に置かざるを得ない。しかしこの主張には根拠がない。なぜ主張は創作を介して行わなければならないのか？ 主張は文章や発言で行った方が正確に伝わるものである。

主張を創作内の表現に落とし込んでしまったら、その意味は少なからず歪む。自己矛盾の作品で例えば「メタル化 HSI」よりその「演出解説」の方が演出意図がはっきりと伝わるではないか。「表現のための芸術」は主張の劣化を前提とした創作であり、よってそれはプロパガンダと

¹⁶ 当然ながらこの主張は「クッキー☆厨の一部しか同志とみなさない」という反革命的な分派主義であり、ガス室送りものの重罪である。

¹⁷ 少なくとも、それを特別に強調していた印象はない。

して「仕方がなく」行われるものだ。なぜ創作者は主張をプロパガンダにしなければならないのか？

自己矛盾はことあるごとに「イキリ無産」を罵倒している。「何も作らないのに批判だけする」「この界限では創作のハードルが地に埋まっているのにも関わらず創作しようとしなさい」これらの主張は「批判するなら多少の技術や時間をかけろ」と言い換えられる。つまり自己矛盾によっての有産と無産の差は**創作活動に労力を投下したかどうか**である。自己矛盾は労働価値説を信じていた¹⁸！

これなら簡単に批判できる。技術や労力のかかった芸術は偉い、というのは資本主義の価値観だ！労働基準の価値観は芸術をただの商品に貶めてしまう。当然ながら、創作物は入力した労力ではなく出力された芸術性で評価されるべきだ！そんなくだらない基準で創作者と非創作者を分けることに何の意味があるのだ！

我々は芸術を行うこと、つまり創作者を名乗ることに一切の労働が不要だと主張する。我々は芸術家を創作者・非創作者と分類することを拒絶する。自己矛盾は単なる小便器を『噴水』と称して展覧会に出品したデュシャンを「無産」と呼ぶのか¹⁹？よく考えたらツアラもマリネッティも大した作品は作っていないが、彼らも無産なのか！？ほぼ何も作らないくせに既存芸術の批判ばかりしていた両者は自己矛盾のいう「イキリ無産」そのものではないか。

ついでに言ってしまう。芸術に「創作者」という概念などいらない！「超芸術トマソン」を見よ！超芸術トマソンは「不動産に付着していて美しく保存されている無用の長物」である²⁰。芸術とゴミは「無用」という共通の性質を持っており、その違いは「保存」されているかどうかである。トマソンは芸術空間に迷い込んだゴミであるのだが、芸術的な意図もなく作られるという点で芸術を「超」えている。よって命名者の赤瀬川原平はこれを「超芸術」トマソンと呼んだ。

クッキー☆は超芸術に似ている。クッキー☆の創始者は HZN でも MAD 作者でもない。史上最初のクッキー☆厨は、初めてクッキー☆Kiss が「淫夢」であると認識したホモであった。つ

¹⁸ 投稿頻度が落ちたのは MAD 制作に疎外されていたからだった……？

¹⁹ 当然ながらここでデュシャンの経歴は関係ない。問題は別人が同時代に全く同じことをやっても「無産」呼ばわりされるかである。

²⁰ 赤瀬川原平 「超芸術トマソン」(1985)

まらなさによって「東方厨に媚びる」という目的を喪失した精スプボイドラ。面白さによって「抜く」という目的を喪失したホモビデオ。ニコニコに展示されたゴミは、鑑賞者に新たな価値を見出されることによって超芸術と化したのだ。

超芸術を作るのは超芸術家、つまり無目的な工作者と一方的に価値を見出す鑑賞者である。

問題は超芸術家が自己矛盾のいう「創作者」であるかだ。超芸術家を創作者と認めてしまえば、動画を視聴しコメントするだけの無産が創作者たりえると認めることになる。超芸術家を創作者と認めないならば……芸術に創作者が不要であると認めることになる！

淫夢語録がゴミボイドラの残骸を埋め尽くした時、クッキー☆が誕生した。あの時のコメント群は間違いなく一種の創作行為だった。現代の MAD に付くコメントもそう変わらない。

だが我々は「創作者」という肩書を求めはしない。自己矛盾が言う創作者なんてのはチンパンジーだってなれるゴミみたいな称号である。動物ごときが我々人間にイキり散らす道理はない。万国のイキり無産よ、団結せよ！

創作には中身が無いといけない

初期の公開面会室で雁木真理兄貴の動画²¹がピックアップされたことがあった。自己矛盾が動画の意図を尋ねた時、雁木兄貴は「それが面白いという結論に至ったから」と詮索を退けた²²。当たり前だ。あの動画に意味なんかあるわけないだろ！

傲慢にも自己矛盾は雁木兄貴に対し、自身の作品に浮き出る深層心理を見つけ出せば動画に深みが増すと「アドバイス」した。無意味無価値を目指すダダイストに対し、作品に無意識が漏れ出てるかもしれないと指摘することがどれだけ挑発的か自己矛盾は理解していなかった。

²¹ 雁木真理 「グーフィ先輩劇場第一話「おっひょ〜〜受精卵が子宮に到達し着床するのは、受精から約1週間後です。しかしママの体には、まだ明らかな変化はないんだひょお〜」

<https://www.nicovideo.jp/watch/sm37363608>

²² 自己矛盾 「今週のクッキー☆動画 2020年8月4週 ゲスト：狐仮虎威」

<https://www.nicovideo.jp/watch/sm37407194>

自己矛盾の理論的背景はどこかで聞きかじったシュルレアリスムだろう。シュルレアリストは深層心理を探求し、表出させることによってヒトを暴こうとする。彼らが「シュール」な創作をしたり、夢を分析したりしようとするのは、無意味から意味を探ろうとしているからだ。芸術に浮き出るヒトの表現を「中身」として崇めるシュルレアリストにとって芸術は無意識を見出すための手段にすぎない。自己矛盾＝シュルレアリストは芸術自体になんの価値も感じていないのだ！

「表現のための芸術」は「芸術の政治化」に行き着く。その極地は「社会主義リアリズム」、つまり大衆に思想を広めるための芸術である²³。しかしソビエトの公式芸術が**芸術としてはゴミ**だったということは誰も否定しないだろう。

何かを表現する芸術はその表現対象の模造品に過ぎない。詩人が思いついた詩歌は神々が作り出した美学そのものの劣化品にすぎないとソクラテスは主張し、死刑を宣告された。社会主義リアリズムも社会主義という概念そのものには劣る。

自己矛盾の主張する「中身のある創作」は芸術に対する冒涇である。我々クッキー☆厨は芸術に「中身」という名の光るチン毛をタダ乗りさせる行為に反対する。芸術そのものに価値があると信じる我々は、「芸術のための芸術」を標榜する。

かつて前衛芸術の主流を気取っていたシュルレアリストは、自己矛盾のような一般大衆にとっての権威へと退行している。我々は自己矛盾の衆愚的価値観に死刑を宣告する。真の前衛芸術たる我々はすべての意味を粉碎する。だからこそ我々は叫ぶ——**何も主張するな！** どのみち表現などやるだけ無駄だ！ どうせあらゆる意味はクッキー☆に回収される²⁴！

²³ ピカソやブルトンを代表に、多くのシュルレアリストは共産主義に傾倒していた。

²⁴ 当然ながら本稿も例外ではない。元から「政治の淫夢化」に意味などないからだ。

総括

アンチ合作は自己矛盾の人格を破壊し、それまで辛うじてヒトだった自己矛盾を原人状態へと追い込んだ。本章は自己矛盾にかすかに残った正当性……彼の芸術理論を攻撃することによってアンチ合作を補完する。

（どうせピックアップしないだろうが）自己矛盾には3つの選択肢がある²⁵。アンチに屈し自己批判するか、第3の狐仮虎威と化して我々を黙殺するか、第4の主張——「それは頭の中の自己矛盾の芸術論だ」とわめくかだ。

そういえば、自己矛盾はアンチ合作をリンチだと言って被害者を気取っていた。ごもつともである。これは紛れもなく私的制裁である。この無法地帯には公平な裁判などなく、あるのは我々による一方的な暴力だ。自己矛盾は狐仮虎威未満の醜態をさらしつつ、「神格化」された「頭の中の自己矛盾」ではなく「本当の私を見てほしい」とせがんだ。自身の「神格化」に憤る前に、今までさんざんいじめてきた素人声優たちに謝るがいい！彼には「神格化」より適した言葉がある。我々は自己矛盾を「クッキー☆化」したのだ！

「大して面白くない現実を塗り替えるために」絵を描き始めた²⁶島溶子は、無意識の探求、自己表現に囚われてしまった。しかしヒトは他者の内面などという大して面白くもないものに興味はない。不毛な精神分析の果てに島溶子はノンケ堕ち²⁷し、承認欲求の奴隷……「自己矛盾」と化した。

マルクスは言った。「今日までの哲学者たちは世界をさまざまに解釈してきたにすぎない。肝心なのは世界を**変える**ことである」と。

²⁵ 後注：ピックアップどころか面会室が消滅してしまった。

²⁶ 島溶子 「ポジティブな絵が描けない」（2009） <http://iamshimaki.blog.fc2.com/blog-date-20091010.html>

²⁷ 「ク☆堕ち」ではない

島谷直樹の人生最大の過ちは「**現実を破壊し、世界を奇想化してやる**」と開き直らなかったことである。我々クッキー☆厨は彼と同じ過ちを犯さない。我々の目的は言うまでもなく、このくだらない世界を糞まみれにすることである。そのためにも我々は「政治」という芸術手法を選択する！

アンチ投稿祭のラスボス、自己矛盾は斃れた。

だが闘争はまだ終わらない。

自己矛盾を生み出した真の黒幕は資本主義社会である。資本主義が世に君臨する限り、自己矛盾は現れ続けるだろう。よって我々は諸悪の根源たる資本主義を打倒しなければならない。革命がいつ成就するかはわからない。今の我々にできるのは、クッキー☆を続けることだけである。

本章が未来の第二、第三の自己矛盾に対する「攻略本」になってくれれば幸いである。

8 章 最後に

以前、自己矛盾がツイカスのお気持ち表明を「論文」と絶賛したことでアンチの失笑を買った事件があった。同じ悲劇を繰り返さないためにもちゃんと言っておく。本稿は 4000 文字程度のパンフレットであり、内容もただのアジプロでしかない。本稿を論文だとか言って絶賛しないように！

……と思ったら勘違いだった。

島スレの書き込みを現実の出来事だと思い込んでいました。ひとえに自己批判します。TPM 兄貴、ごめんね！ 頭の中の自己矛盾にも謝ります。

最後に、本稿を「2.15 アンチ自己矛盾合作」に掲載させてくださったスミ久兄貴に感謝いたします。

ありがとう ありがとう ^{ひろ} 博く麗しい投稿者よ

マンチカンドコ？